

柔道競技要項

期 日	令和7年7月5日（土）・6日（日）
会 場	鈴鹿市武道館 住所：〒510-0231 三重県鈴鹿市江島台2丁目6-1 電話：059-388-0622
審判・監督会議	12時30分
開会式	13時00分
競技開始	開会式終了後
閉会式	競技終了後

A. 競技規定

- (1) 試合は「国際柔道連盟試合審判規定」による。
- (2) 試合時間は、全国大会団体予選・男女個人戦とも4分とし、勝抜戦は3分とする。
- (3) 「優勢勝ち」の判定基準について
 - ① 団体試合は、「有効」又は「僅差」以上とする。なお、「僅差」は、指導差2とする。
 - ② 団体戦の代表戦（任意選出）及び個人試合は、「技有」以上とする。ただし勝敗が決しない場合は、延長戦を（ゴールデンスコア）時間無制限で行う。両試合者が「同時反則負け」「同時一本」の場合は、延長戦（ゴールデンスコア）で勝敗を決する。代表選以外の「同時一本」の場合は「引分」とし、「同時反則負」の場合は両者負けとする。
 - ③ 個人試合の判定基準は、「有効」または「僅差」以上とする。なお、「僅差」は指導差2とする。
 - ④ 技による評価が同等の場合は、延長戦（ゴールデンスコア）において勝敗を決する。延長戦による判定基準は「有効」以上の得点、または「指導」の数に差がついた時点で試合終了とする。個人戦または団体戦の代表戦において、「同時一本」もしくは累積による「両者反則負」の場合は、スコアをリセットし、延長戦（ゴールデンスコア）において勝敗を決する。また、延長戦において指導の累積により「両者反則負」となった場合には、スコアをリセットし、再度延長戦（ゴールデンスコア）を行い必ず勝敗を決する。
- (4) 関節技においては、その効果があると認めたとき、審判員の見込みによって「一本」の判断を下すことができる。但し、絞技においては、見込みによる判定を行わない。
- (5) 選手は、全日本柔道連盟規格の柔道衣を着用し、規定のゼッケンを付けること。また、試合中柔道衣の破損などにより、試合に支障をきたす場合には、同チームの別の柔道衣（規定に合ったもの）の着用を認める。（旧規格でもよい）
- (6) 試合中審判に対して意見（抗議）を言う監督については、三人の審判員で合議し、その監督に言動を慎むように注意をすることができる。なお続くようであれば、その監督を退場させることができる。（全柔連通達事項を重視する）
- (7) 出場選手は、全日本柔道連盟に登録している者とし、申し込みにあたっては、全日本柔道連盟登録IDナンバーを記入すること。
- (8) 出場選手の変更については、正当な理由がある場合、所定の用紙に手続きした上で、顧問会議によって可否を決定する。

(9) その他

- ① 脳震盪対応について、選手および指導者は下記事項を遵守すること。
ア 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
エ 当該選手の指導者は、大会事務局および(公財)全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- ② 皮膚真菌症(トングランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。脳震盪対応については、全柔連通達事項を厳守する事。

B. 競技方法

(1) 全国高専大会団体予選

- ① 試合は、3高専によるリーグ戦で行う。
- ② 各試合は、5名の選手による点取り試合方式で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
- ③ チーム人員は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手7名以内、計10名以内とする。
- ④ リーグ戦内のチーム対チームの勝敗は、勝数の多いチームを勝とする。勝数が同数の場合は、勝内容(一本勝数・技有勝数・有効勝数)の多い順で決定する。勝内容も同じ場合は、引き分けとする。ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。
- ⑤ リーグ戦の順位の決定は、チーム戦勝数の多いチームを上位とする。勝数が同数の場合は、負数の少ないチームを上位とする。勝負同数の場合は、総得点の多いチームを上位とする。それでも勝負が決定しない場合は、代表戦によって決定する。
- ⑥ オーダー用紙の提出は、試合開始10分前までに行う。試合が連続してある場合は、前の試合終了後速やかにオーダー用紙の提出を行うこと。(当該試合場の試合係は、両チームのオーダー用紙を確認してから掲示すること。)
- ⑦ 表彰は、1位に優勝杯、1位、2位、3位に賞状を授与する。
- ⑧ 優勝校は、第60回全国高等専門学校体育大会(団体の部)への出場権を得る。
- ⑨ 準優勝校は、第60回全国高等専門学校体育大会(三人制団体の部)への出場権を得る。

(2) 男子個人の部

- ① 出場人員は、監督1名、マネージャー1名、選手は66kg級・73kg級・81kg・無差別級の4階級に12名以内の出場とする。
- ② 試合は、体重別によるトーナメント戦とする。(トーナメント戦の組合せについては、出場人数の関係上試合数に不平等性がある場合、顧問会議で確認し再抽選を行うことができる。)
- ③ 3位決定戦は行わない。
- ④ 計量に合格しない者は、出場できない。計量は、マネージャー立会いのもと行い、所定の時間内であれば何度でも行うことができる。ただし選手の計量は1日で行うものとする。(大会初日の試合終了後の所定時間内か、個人試合当日の所定時間内のどちらかを、選手が選択できる。)
- ⑤ 前年度3位以内に入賞した選手を、シード選手とする。
- ⑥ 表彰は各階級1位、2位、3位に賞状を授与する。
- ⑦ 各階級の優勝者は、第60回全国高等専門学校体育大会(男子個人の部)への出場権を得る。

(3) 女子個人の部

- ① 階級は、52 kg級・57 kg級・63kg 級・無差別級とする。
- ② 試合組み合わせは、顧問会議にて出場者数を確認し、リーグ戦・トーナメント戦の試合方式 を決定し、抽選を行う。
- ③ 計量は、顧問会議の時間に、マネージャー立会いのもと行い階級を確認する。
- ④ 表彰は各階級1位、2位、3位に賞状を授与する。
- ⑤ 各階級の入賞者は、北陸地区の同階級入賞者との間で、東海地区・北陸地区の代表顧問間により全国大会出場の決定を行い、東海北陸地区代表として各階級3名が、第60回全国高等専門学校体育大会（女子個人の部）への出場権を得る。（前年度全国大会上位入賞者等、過去の実績を重視する。）

(4) 勝抜団体試合

- ① 出場人員は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手10名以内、計13名以内とし、全国大会「団体の部」予選に出場しない選手とする。
- ② 試合はリーグ戦とし、7名による勝抜戦で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
- ③ 順位の決定は、勝数の多いチームを勝とする。同勝数の場合は、負数の少ないチームを上位とする。勝数・負数が同じ場合は、残者数の多いチームを上位とする。それでも順位が決定しない場合は、代表戦を行う。
- ④ オーダー用紙の提出は、試合開始10分前までに行う。試合が連続してある場合は、前の試合終了後速やかにオーダー用紙の提出を行うこと。（当該試合場の試合係は、両チームのオーダー用紙を確認してから掲示すること。）
- ⑤ 表彰は1位、2位に賞状を授与する。